

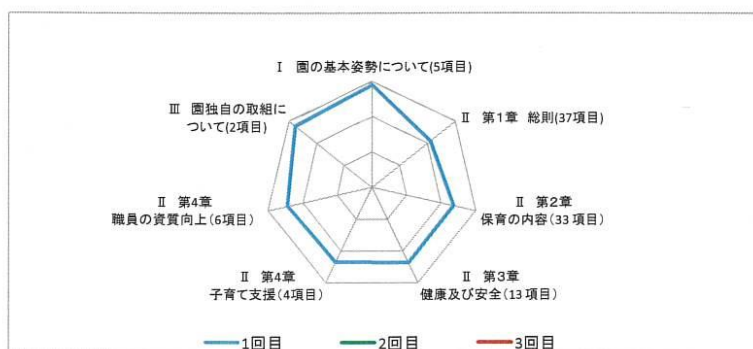
<評価方法>

十分理解できている(十分できている)…◎3点 理解している(できている)…○2点 ふつう…▲1点 努力が必要…×0点

集計結果（チェック3回分）

回答人数 入力してください		6 人											
評価		1回目				2回目				3回目			
		◎	○	▲	×	◎	○	▲	×	◎	○	▲	×
I 園の基本姿勢について(5項目)		3	17	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0
II 第1章 総則(37項目)		3	67	137	15	0	0	0	0	0	0	0	0
第2章 保育の内容(33項目)		3	89	93	13	0	0	0	0	0	0	0	0
第3章 健康及び安全(13項目)		3	32	38	6	0	0	0	0	0	0	0	0
第4章 子育て支援(4項目)		0	10	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第5章 職員の資質向上(6項目)		0	19	15	2	0	0	0	0	0	0	0	0
III 園独自の取組について(2項目)		0	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0

レーダー



項目別の評価と改善策

I 園の基本姿勢について

・令和5年4月に開園したので、職員は自園の保育理念や保育目標を理解しようという姿勢は多くみられた。また、経験年数が豊富な職員が多く小規模保育園ではあるが、保育所としての社会的責任の理解があった。しかし、チームワークをよくするためには、いろいろな場面で立ち止まり意見を交換し、共通理解をするように努めてきた。子ども一人ひとりの人格を尊重する保育を、振り返ることをしながら行っていきたい。

II 保育所保育指針

第1章 総則

・保育所の役割として、在籍する子どもの最善の利益を考慮し、安心安全な生活の場を作るようにしてきた。保育の方法については、職員の経験してきた保育観を見直し、当園の保育の方向性についての話し合う時間はたくさん作ってきた。しかしマンネリにならないように振り返りをして改善するところを見つけていきたい。

・子どもが自発的・意欲的にかかわれる環境づくりをし、乳児期にふさわしい体験ができるようにしていきたい。

・保育の計画や評価については、書式を検討し、作成してきた。自園の保育方針や目標に基づいた内容で作成できるように検討をしていく。

・今年度は、2歳児少なかったもので、1歳児と活動が一緒になることがほとんどだった。その中で歳児に合わせ興味関心が持てるような保育を展開していく難しさがあった。

・保育士の自己評価は、「全国保育士会人権擁護の為にセルフチェック」も使い、不適切な保育をしていないか振り返ることも行った。

第2章 保育の内容

- ・乳児期の発達を理解し、一人一人の子供の成育歴の違いに配慮し応答的な関わりを持つように心がけた。乳児保育に関わる職員だけでなく、園全体で子どものことを理解し連携を取ってきた。疾病においては、発達状態や健康状態においても適切な判断ができるように保健的な対応をしていきたい。感染症の対応について保護者にプリントを作成し周知をした。
- ・集団生活でも、個々を大切にし、気持ちを受けとめながら援助するよう心掛けた。

第3章 健康及び安全

- ・感染症やその他の疾病への予防対策は、保育室の消毒、子どもたちが触るおもちゃの消毒など定期的に行ってきた。罹患者情報を保護者に渡し注意喚起も行った。自園の感染症が発生した場合の対応についても保護者にプリントを配布し理解を求めた。
- ・アレルギー児(卵白)が在籍しているので、医師の診断を受け生活管理表を提出してもらい、食事の提供のルールを職員間で確認し、安全な環境を作っていた。
卵アレルギー児については給食の提供ができるが、今後、小麦アレルギーのお子さんを保育することは今の給食室の環境では難しいと感じた。
- ・自園の保育方針にも掲げてあるが、保育所の特性を生かした食育については様々な工夫がされていると思う。子どもたちも育てる楽しみ、収穫する楽しさや醍醐味は味わえたと感じる。家で食べられなかった野菜も保育園の給食だと食べることができているというお子さんもいる。
- ・保育中の事故防止についてはなれ合いにならないように危機感を持ってこれからも保育していきたい。安全点検票を作成しているがしっかり確認をしていきたい。
- ・熱性けいれんを起こし救急搬送した園児がいた。119への通報訓練を6月に行っており通報の対応はできていた。痙攣をおこしている園児の経過観察もできていたが、救急隊からのアドバイスで、動画を撮っておくとよいと言われたのでフローに載せておきたい。
- ・災害の備えについては、まだ十分ではないので、次年度計画的に準備をしていく。毎月、地震や火災の避難訓練をしているが、いろんな災害を想定して訓練をしていく必要があると感じている。次年度はさらにいろいろな場面を想定して訓練を行っていきたい。

第4章 子育て支援

- ・毎日コドモンのアプリでお子さんの様子と、写真3枚を付けて連絡帳を送っている。文章だけではなくので楽しく過ごしている様子が伝わり、保護者は楽しみにしてくれている。
- ・保護者との信頼関係を気づくためには、アプリだけではなく送迎時のさりげない会話も大切にしている。保護者の状況では個別に対応が必要な家庭もあるため、気遣いながら会話をしていくようにした。
- ・子ども同士のトラブル(噛みつき・ひっかき)で、保護者からご意見を頂いた。保護者の思いを傾聴し、謝罪をして当園の対応について話をさせていただいた。言葉が出ないこの時期のトラブルにおいて、職員間で話し合い対策をした。一人1人の家庭状況や、その日の情緒など気づいたことは職員同士連携を取り伝えあった。
- ・行事は親子で楽しめる内容にし、アンケートを取り次年度に活かせるようにした。

第5章 職員の資質向上

様々な書類を作成検討する中で、自己評価をどのように表記していくのかを話し合った。セルフチェックをする中で自己の課題を見つけ、園としてコドモンの研修を使って自己の資質を向上するためのプログラムを令和6年度は作成し取り組んでいく必要があると感じた。保育園に初めて勤務する職員もいたのでキャリアアップ研修を受けて乳児保育について勉強する機会を得た。これまでの職場でキャリアを積んできた職員もいるため、足りない研修について令和6年度は計画的に受講できるようにしていきたい。

Ⅲ 園独自の取り組みについて

・**小規模保育園の特徴を理解し、家庭と連携をしながら子供の成長の手助けをすることを理解している。**

0～2歳児までが在籍する小規模保保育園だが、0～5歳児までいる保育園の0～2歳までの保育と違いがあるのだろうか。施設の作りだったり園児数によって1、2歳児合同で保育することがほとんどであった。1、2歳児の園児数に対して職員数が多いため個別対応がしやすいと思う。ただ預けるだけの園として保護者が勘違いしないように、園の取り組みを随時伝えていかなければならないと感じる。園の行事も大規模な保育園と変わらないものを行ってきたが、R6年度はやり方を変えていく方向でいる。

・**年間を通して食育を保育の中に取り入れ、栽培から食すまで行うことで食への興味関心を持つようになることを目指していることを理解している。**

保育目標にも挙げてあるように、園全体で食育活動に取り組むことができた。もぐもぐフェスタを年4回計画し、季節の野菜を使って子どもたちができる工程を取り入れクッキングを行った。また栽培から、収穫までを楽しむことができ、土の中から掘り出す作業は子どもたちも楽しかったようであった。職員も栽培する経験を積みながら子どもたちと一緒に食育活動を積極的に保育の中に取り入れられるようになるようにしていきたい。

総評

令和5年4月に開園した小規模保育園をどのように運営していくのか職員との話し合いを持ち進めてきた。子どもの人数が少ないので丁寧な対応ができるのだろうか、保育の内容についてはあれもこれも詰め込みすぎではないだろうか、などまんまる保育園の保育の仕方について話し合いを繰り返してきた。職員は経験が豊富ではあるが、これまでの自分の常識だったりこうすべきという考えを今一度振り返り疑問に思うことなど話し合いを進めることができた。

園児の家庭事情も様々で、園の取り組みがなかなか浸透しない家庭に対し何度も声をかけ対応をしてきた。担任も送迎時に保護者と必ず会話をし、その中からいろいろな問題もわかり対応をすることもできた。

小規模保育園なので3歳からの保育園探しは、連携園に1名、兄弟が通う保育園に1名、沼津市外の幼稚園へ入園が決まった。今年は3名だったのですんなり行き先が決まった。来年度はどのように決まっていくのか早めに保護者の意向を確認していきたい。

職員体制も、非常勤職員を1名採用する予定である。